

注意点1

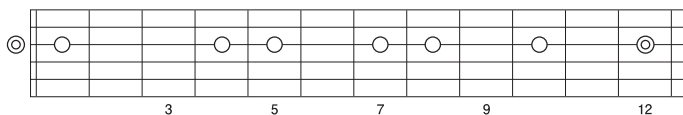


完全5度から音を並べ替えた変則的なスケールを覚えよう

このフレーズで使われているスケールは、“ハーモニック・マイナー・パーフェクト5thビロウ”(図1)。これは、名前のとおりハーモニック・マイナーを完全5度から並べ替えた音階となっている。譜例のスケールは、“Cハーモニック・マイナー”をCの完全5度音、つまりG音から並べ替えた“Gハーモニック・マイナー・パーフェクト5thビロウ”となる。確かにCハーモニック・マイナーと構成音は変わらないのだが、完全5度のGメジャー・コードが鳴っている時にCハーモニック・マイナーを使う時は、同じスケールでも“Gハーモニック・マイナー・パーフェクト5thビロウ”と呼ばれる。プチ理論として覚えてもらいたい。

図1 Gハーモニック・マイナー・パーフェクト5thビロウ

◎ ルート音=G



Cハーモニック・マイナーをCの完全5度音であるG音から並びかえたスケール。

注意点2

初心者の壁
ダウンの空振り

このフレーズで登場する空振りは、ダウンとアップの2種類(図2)。これまでアップの空振りは何度か出てきたので慣れてきたと思うが、ダウンの空振りは意外と苦戦するかもしれない。筆者もビギナー時代にダウンしか知らずにかなり苦労した。実際に弾くには、前後のアップ・ピッキングばかりを意識して弾こうとするのではなく、“アップ→ダウン→アップ”という一連の動きをセットにして弾くことが大切だ。ダウンの空振りは誰もが苦戦することなので、慣れるまでは、“ゆっくり&しっかりと大げさ”に空振りを入れるようにすると良いだろう。

図2

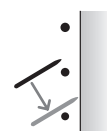
アップの空振り



ダウン



空振り(アップ)



ダウン

ダウンの空振り



アップ



空振り(ダウン)



アップ

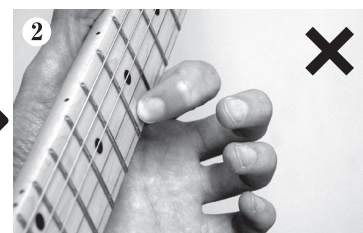
注意点3

開放弦を絡めたプリングは
斜め上空に引っ掛けよう

このフレーズを弾くためには、まず注意点1で解説したスケール図を覚えることが大切だ。そして次に、開放弦へのプリングを注意しよう。そのポイントは2点。1点目は弦を引っ張り過ぎて、音をシャープさせてしまうこと(写真①)。2点目はプリングした後、隣の弦をさらに引っ掛けてしまうことだ(写真②)。この2点を回避するためには、弦の下方向に向けて指を引っ掛けるのではなく、斜め上空に向けて引っ掛ける感覚でプリングを行なうと良い(写真③&④)。そうすることで軽い力でプリングができるので、音がシャープしたり、余弦に指が当たることを避けることができるだろう。



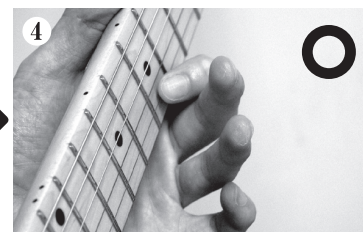
弦を引っ張り過ぎると、音がシャープしてしまうので注意。



プリング後、隣の弦に指が当たるのはNG。



弦に軽く引っ掛ける程度の力でプリングしよう。



2弦の上空あたりを目標に弦を引っ掛けると良い。